

## 肺がん検診

川口市立医療センター

呼吸器外科 ひ ぐれ りょう た  
**日暮亮太**



肺がんは、日本における悪性腫瘍による死亡原因の第1位であり、年間約7万5000人のかたがたが亡くなっています。その恐ろしいところは、早期のうちに症状が現れることはまれであり、症状が現れたときにはかなり進行していることです。手術や抗がん剤、放射線などのさまざまな治療がありますが、何よりも早期のうちに発見し、治療を行うことが重要です。日本では早期発見のため、40歳以上のかたに定期的に胸部レントゲン写真を撮る肺がん検診を推奨しています。レントゲン検診で肺がん死亡率を約11%減少させることがわかっており、さらに二人の医師による読影(二重読影)、以前のレントゲン写真との比較(比較読影)、タバコの喫煙本数が多いかたは痰たんの検査(喀痰かくたん細胞診)などで検診精度の向上に努めています。しかし残念なことに、肺がん検診の受診率は全国平均約46%とまだ低いのが現状です。「症状がないから大丈夫」「症状が出てからでも間に合う」と考えず、肺がん検診の案内が届いたら、積極的に受診しましょう。

また、検診を受けて「要精査(精密検査が必要)」と通知が来ても、すなわち肺がんであるというわけではありません。要精査のかたで本当に肺がんが見つかる割合は約2.8%です。きちんと二次検診を受けることが大切です。当科では近隣の医療機関から二次検診を受け付けています。遠慮なくご相談ください。